

こどもの生活環境改善委員会主催

第10回思春期医学臨床講習会報告

開催日時：2015年5月24日（日）

開催場所：AP 大阪梅田茶屋町

（所在地 大阪府大阪市北区茶屋町1番27号 ABC-MART 梅田ビル 8F）

参加費：医師 5,000 円，非医師 3,000 円

参加者数：112 名

今回の思春期医学臨床講習会のテーマは下記のとおりで、当委員会が日本小児科学会員に対して思春期医療についてアンケート調査を行った際の、「現在の思春期の子ども達に課題と思われるもの」の質問項目で回答が多かった課題に合致していました。

- 1 「いじめへの考え方と対応」 平岩幹男
- 2 「子どもたちを性の不安から守るには」 早乙女智子
- 3 「メディア漬けで壊れるこどもたち—スマホ社会の落とし穴—」 清川輝基
- 4 「成人移行を見据えた慢性疾患の思春期医療」 石崎優子
- 5 「思春期の神経性やせ症—プライマリケアと家族支援—」 鈴木真理
- 6 「不定愁訴をもつ思春期児への診療の実際」 田中英高

受講者へのアンケートから、ほとんどの受講者が今回のテーマに興味があったということ、また、講習会の会場が駅から徒歩1分という利便性の良い場所であったことが相まって、受講者が111名と多い講習会になりました。そのため会場が窮屈になってしまったことが反省点でした。

受講者の75%は初めての参加で、40%は学会ホームページ、30%は学会雑誌の広報をみての参加でした。受講者の年齢は、20歳代がもっとも少なかったものの、30歳から60歳までほぼ同数で、幅広い年代層に受けていただきました。受講者の大半は小児科医でしたが、中には内科医、精神科医、看護師、心理士も受講されていました。5月という講習会の開催時期については99%に満足していただいております。今後もこの時期の開催を検討したいと思います。

今回の講習テーマは、受講者にとって興味あるものだったにも関わらず、残念ながら一つのテーマの講演が40分と短かったために、ゆっくり聴講したかったというご指摘もあり、今後は総論・各論、また総合討論の時間など、余裕ある時間配分を検討する必要があります。ほとんどの受講生が今後も講習会に参加したいと希望されており、また受講してみたいテーマを幅広くご提案いただくなど、受講者の熱意をしっかりと受け止め、今後の講習会を企画していきたいと思っております。

最後に、本講習会を受講していただいた先生方におきまして、日々の臨床に役立てていただけることを心から祈念致します。